

農学知的支援ネットワーク

農学知的支援ネットワーク (JISNAS: Japan Intellectual Support Network in Agricultural Sciences) は、農学分野における国際協力活動への参加の意図を有する大学間の連携及び大学と国際農業研究機関との連携を促進することを目的として、2009年11月30日に設立されました。農学国際教育協力研究センターは、そのビジョン・ミッションを踏まえ、設立をリードし、設立後は事務局を預かって、活動に深く関わっています。

途上国に焦点を当てた教育/研究協力を効果的・戦略的に推進するには、大学等有する知的資源を組織的かつ継続的に活用し、途上国の多様化・複雑化するニーズに的確に答えていくことが必要です。それには大学を中心とした専門組織がネットワークを形成し、個々が有する知見の範囲に限定されることなく、多機関の有する専門的、網羅的かつ高質な「知と経験」を提供するシステムの構築は有効な手段といえます。国立大学の法人化以降、学術分野もますます競争的になってきていますが、競争社会という環境を念頭に、単独ではなく協働の成果を上げていくことが期待されます。

JISNASを通じた国際協力の推進は、途上国の人材育成のみならず、国際協力に関わる我が国の若手人材の育成等も可能にし、国際社会での我が国の役割の強化に繋がるものと思われます。平成25年4月現在、団体会員40団体、個人会員51名を擁し、文部科学省、農林水産省、国際協力機構および国際農林水産業研究センターの支援を受けています。



刊行物

農学国際協力

当センターの機関誌「農学国際協力」は、外国人招へい研究員の研究報告、当センターが主催するオープンフォーラムの講演や議論の記録など活動計画を発表する場としての役割を果たしてきました。しかし、平成23(2011)年、新しい学問分野「農学国際協力学」を創出することを目的として、その内容をリニューアルし、より学術性の高い雑誌として刊行することを決めました。

新しい機関誌「農学国際協力 (Journal of International Cooperation for Agricultural Development)」は、これまで埋もれがちであった農学国際協力の個々の事例やシーズとなる技術あるいは研究などを学術論文(査読付き)として掲載していきます。一般からの投稿を歓迎します。



ICCAE News

当センターが1年に2回発行している定期刊行物です。当センターが現在実施している研究活動などを掲載いたします。

オープンフォーラム・セミナー

本センターでは、毎年農学教育と国際協力の両分野における重要な課題を取り上げ、テーマに造詣の深い研究者や実践者を国内外から講師として招待し、大学関係者だけでなく一般市民も参加できる形式でオープンフォーラムを開催しています。また、途上国で国際協力に関わっていた農学分野の専門家などを講師として、農学国際協力に関心を持つ研究者や学生、一般市民を対象に年に数回、オープンセミナーを実施しています。

